

行田の街並(日本遺産の看板とサイン)

平成 29 年「日本遺産」認定を受けた行田市は日本遺産のストーリーや位置図、写真等を掲載した内容の説明板、個別の説明板、歩行者用案内板などを設置している。また、誘導案内板は車で訪れた観光客が駐車場を迷わず利用できるサインも登場した。そこで、行田駅から日本遺産の存在する行田市街の近辺までを移動し「足袋蔵めぐり」を試みました。初めて訪れた人には、そのアクセス方法も含めて、行田の日本遺産への歓迎と誘導は最も大切な事柄です。

先ず、JR 行田駅から国道 17 号を横切り、水上公園口まで約 5Km の道のりを直進した。駅周辺には
途中は、
るだけ
地には“本当に日本遺産があるのか”不安となってしまう。



「歓迎看板、総合説明板」があるものの、「日本遺産ののれん」が一ヶ所の店にあっていっこうにない。JR 駅から離れた市街



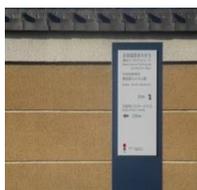
さらに、水上公園から、行田市バスターミナルと観光案内所まで足を進めていくと、あちこちに「説明板」があって安心。しかし行田市の駐車場の不足だけでなく、駐車場への「誘導板」が少ないのが気になった。

今度は、秩父線の行田市駅から直進して、国道 125 号線、さらに佐間の交差点まですすみました。さすがに駅前ですね、JR 行田駅前と同じく「総合観光案内」「日本遺産ストーリーと位置図」がありました。そして、訪問客の多い“ぎょうだ足袋蔵ネットワーク”へは「誘導看板」と「歩行者用案内板」

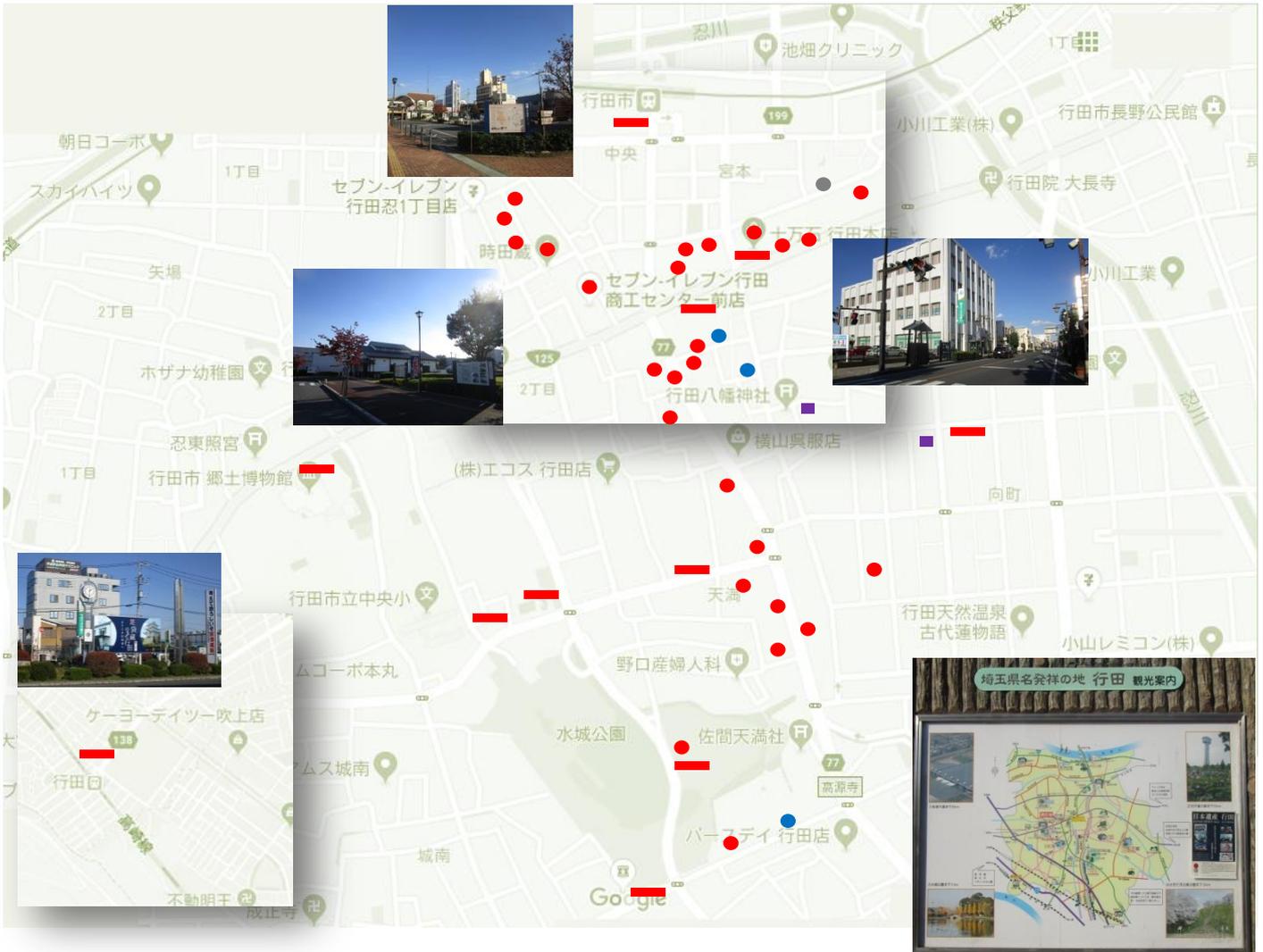


があり、親切に誘導してくれました。もちろん、この行田市の中心地には「日本遺産ストーリーと位置図」があちこちにありました。最後に、“足袋蔵、工場”が多い市街の裏通りへ進めてみると、

「ルート案内板」「歩行者用案内板」が親切に誘導してくれました。足袋蔵の前には「説明板」がしつかり、日本遺産のマークつきで取り付けられていました。しかし認定された遺産外も昔からの別のサインも混在していた。



行田市地図 秩父線行田市駅～国道 125 号線～JR 行田駅



- 足袋蔵の説明板
- 足袋工場の説明板
- 認定外足袋蔵の説明板
- 日本遺産のストーリーや位置図、写真等を掲載した内容の説明板、歩行者用案内板

日本遺産 「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち 行田」

行田市の日本遺産ストーリー

平成20年4月28日、埼玉古墳群、空城跡、行田長橋、足袋蔵など行田市の歴史・文化の魅力をもとめたストーリー「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が、埼玉県内の日本遺産に認定されました。

そのストーリーの概要は、次の通りです。

足袋の城下町行田の裏通りを歩くと、練りミシンの音が響き、土壁、石壁、モルタル壁など多彩な足袋の蔵「足袋蔵」が目を惹きます。行田足袋の始まりは約300年前、武士の足元を支え続けた行田足袋は、今が最も盛況として知られ、最盛期には全国約8割の足袋を生産するまでに発展した。それと共に明治時代後半から足袋蔵が次々と建てられていった。今も日本の足袋産地として和装文化の足元を支え続ける行田には、多くの足袋蔵等歴史的建築物が残り、歴史ある景観を形づけている。

日本遺産の構成資産

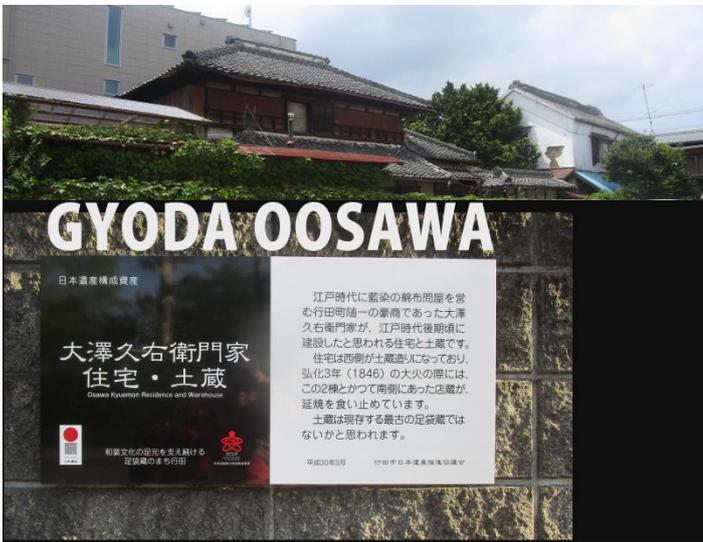
行田市の日本遺産ストーリーを構成（説明）する文化財群（構成資産）は39件で、内訳は史跡4件、古文書2件、建造物26件（総棟数56棟）、有形民俗文化財2件、無形民俗文化財4件となっています。

構成資産の中心となるのは、足袋蔵です。「蔵のまち」は全国にあります。足袋蔵の「蔵」は行田市だけです。近年この足袋蔵が、観光案内所「ギョウライ」そばに、パン屋等様々な店舗に再活用されています。「足袋蔵のまち行田」をぜひ楽しんでください。

足袋蔵まわりミュージアムは、行田市日本遺産観光センターに併設しています。是非お立ちください。

日本遺産

和装文化の足元を支え続ける
足袋蔵のまち行田



「大澤久右衛門」家の蔵造り
江戸時代の行田町は幾度かの大火に見舞われましたが、
中でも弘化3年(1846)の大火は記録的なものでした。
この大火の火を止めたのが、この地のこの建物です。



